



# しあわせのまち若葉



## 第30号

令和8年7月発行

【編集】

若葉区支えあいのまち推進協議会事務局

若葉区貝塚2-19-1

(若葉保健福祉センター内)

TEL 043-233-8558

FAX 043-233-8251

## 若葉区支えあいのまち推進協議会 グループワークを開催

～地域のこれからを「見える化」するために～

若葉区支えあいのまち推進協議会では、令和6年度に千葉大学大学院社会科学研究院教授の関谷昇先生を講師にお迎えし、「地域コミュニティ再生に何が必要か」と題し、講演会を開催しました。

講演では、「世代や分野を超えて人と人をつなぐ連携の必要性」についてお話いただき、その具体的な取り組みを考えるため、令和8年3月4日、グループワークを実施しました。

グループワークでは、地区や団体の活動について「できていること」「できていないこと」を整理し「人材」「資源」「制度」「連携」などの視点から、地域ごとの5グループに分かれて意見交換を行い、関谷先生からコメントをいただきました。



### ○グループワークで見た地域の現状

各グループで特に多く挙げられた課題は、担い手不足と若い世代の参加不足です。自治会や地区部会活動への関心低下に加え、仕事や子育てなどにより活動への参加が難しい状況があり、次世代のリーダー育成も課題となっているほか、高齢者が高齢者を支援する「老老支援」の増加も指摘されました。



さらに、情報共有に関する課題も多く挙げられました。回覧板だけでは情報が十分に届かず、団体同士の横のつながりも弱くなっている、制度や支援サービスの情報不足により、住民や民生委員が対応に苦慮するケースも報告されました。

一方で、地域によって活動状況に差があることも明らかになりました。見守り活動や協力体制が機能している地域がある一方で、活動の停滞や解散が見られる地域もあり、地域ごとの実情に応じた支援や連携の必要性が共有されました。



また、障害福祉や 8050 問題など地域課題への理解を深めるため、情報発信や学びの機会を充実させる必要性も共有されました。

地域の課題や活動状況を広く発信し、多くの人が地域づくりに関われる環境を整えることが今後の大きなテーマとなっています。

## ○関谷先生からのコメント

今回挙げられた課題は多くの地域に共通するものであり、特に担い手不足や地域活動への参加者減少が深刻化しているとお話がありました。



一方で、地域には退職後の住民をはじめ、豊富な経験や知識、特技を持つ人材が数多く存在しています。そうした一人ひとりの力を生かし、地域活動につなげる仕組みづくりが重要であると指摘されました。

また、活動への参加のハードルを下げるため、「短時間だけ参加する」「できる時だけ協力する」といった柔軟な関わり方を取り入れることや、SNS など多様な媒体を活用した情報発信の必要性も提案されました。

さらに、自治会や福祉団体だけでなく、大学、病院、金融機関などの外部団体も含めた連携の重要性も示唆され、千葉市が推進する地域運営委員会のような仕組みを活用し、多様な主体が地域課題を共有することで、新たな取り組みや地域活性化につながる可能性が示されました。

加えて、障害に対する理解不足や支援サービス・施設の不足、情報不足といった福祉面の課題も指摘されており、誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けた支援体制の充実が求められています。



## ○今後に向けて

グループワークを通じて、地域福祉活動を継続・発展させるためには、若い世代や退職後の住民が参加しやすい仕組みづくりや情報発信の方法を変えて担い手を確保すること、学校や企業など多様な団体と、地域課題などを情報共有していくことで、新たな取り組みにつながる可能性があることなど、今後の活動に活かせる考え方や具体例を共有することができました。

令和8年度は、グループワークの結果を踏まえながら、地域福祉計画（第5期：～令和8年度）推進の継続と、地域福祉計画（第6期：令和9年度～）に向けた若葉区共通的な取り組みの選定を行いたいと思います。

## 「若葉区支え合いのまち推進計画」でお互いさまのまちづくりを！

### 「だれもが いきいきと暮らせる しあわせのまち 若葉区」



～あなたとわたしでつくる 支え合う地域福祉の実現をめざして～



この基本目標は、若葉区の目指すべき将来像です。住民の皆様をはじめ、地区部会、町内自治会、福祉施設、学校、諸団体等の連携、協力が本計画の推進には必要です。

「困ったときはお互いさま」の支え合いの仕組みづくり。

あなたのまちでもすすめてみませんか。

